

「公共事業コスト構造改革プログラム」

【施策名：(2) 計画・設計から管理までの各段階における最適化】

新技術を用いた既存の処理施設の高度処理化

概要：既存処理施設を新技術を用いて、従来の処理水質以上の水質が得られる水処理（高度処理化）を実現

(従来)

高度処理化するために施設を拡張

⇒

(新)

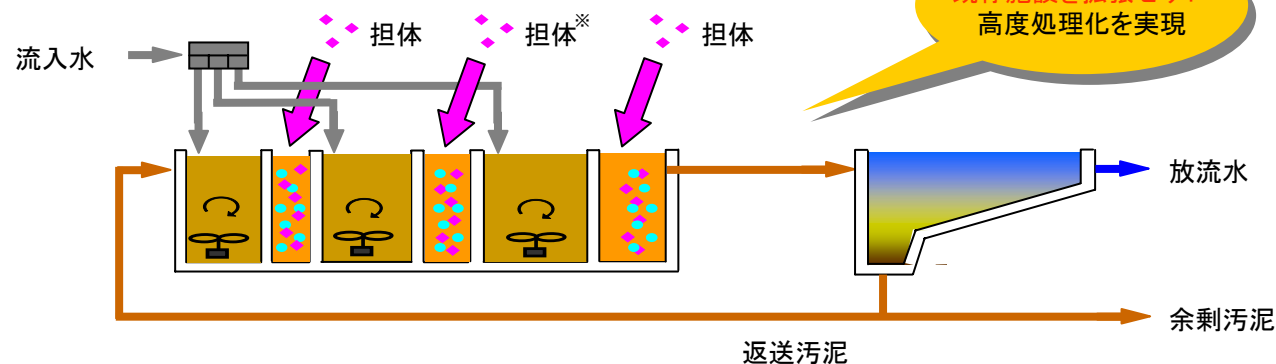
既存施設を拡張せず高度処理化

効果

・通常、高度処理化を図るためには2～3割程度施設を拡張する必要があるが、新技術（担体投入やステップ（段階的）流入）を用いることにより、既存施設を拡張することなく高度処理化を実施し、コスト縮減を図った。

■日本下水道事業団全体で建設費を、**15,934百万円**から**11,154百万円**に縮減。
(縮減額 **4,780百万円**、縮減率 **約30%**)

担体投入ステップ流入式多段硝化脱窒法



※担体：窒素除去に關与する微生物を高密度に保持、固定化する固形物等
(写真は担体の一例)